

令和 4 年

北海道特用林産統計

令和6年3月

北 海 道

目 次

● 〈概要編〉

I	国内の主な特用林産物の生産動向	1
II	北海道の主な特用林産物の生産動向	
1	きのこ類	2
2	木炭・木酢液	3
3	薪	4
4	山菜類	4

● 〈資料編〉

I	特用林産物全般	
1	主要特用林産物生産量及び生産額の推移	5
2	主要特用林産物の都道府県別生産順位	6
3	主要特用林産物生産量の推移（全国対比）	7
4	特用林産物生産額の推移（全国対比）	8
5	主要特用林産物生産者数の推移	8
II	きのこ類	
1	生しいたけの月別生産量	
	（1）原木栽培	9
	（2）菌床栽培	9
	（3）生しいたけ合計	9
2	生しいたけ生産量における原木栽培と菌床栽培の割合の推移	9
3	生しいたけ生産規模別生産者数の推移	9
4	生しいたけ生産者の職業別内訳の推移	
	（1）原木栽培	10
	（2）菌床栽培	10
	（3）生しいたけ合計	10
5	しいたけ原木の調達ルート	10
6	しいたけ原木価格の推移	10
7	しいたけ原木伏込量の推移	11
8	菌床製造用おが粉の調達ルート	11
9	しいたけ菌床ブロック等の調達の推移	11
10	主なきのこ類の出荷先内訳	11
11	道内主要市場における主なきのこ類の産地別入荷動向の推移	12
12	一世帯当たりきのこ消費量の推移（二人以上の世帯）	12
III	木炭等	
1	木炭等用途別生産量の推移	13
2	木炭等品目別生産者数及び窯数の推移	13
3	木炭輸入量の推移	13
IV	山菜類、その他	
1	山菜類生産量の推移	14
2	道内主要市場における主な山菜類の産地別入荷動向の推移	14
3	その他の特用林産物の生産量の推移	14
V	令和3年主な特用林産物の市町村別生産量順位	15

< 特用林産物とは、 >

主として山林原野において産出されてきた産物で、きのこ類、山菜類、薬用植物、果実類、樹脂類、木炭、薪及び桐など、一般用材以外のものをいいます。

(注)

平成30年からの統計調査結果より、調査対象者数が2以下の場合には、個人又は法人その他の団体に関する調査結果の秘密保護の観点から、当該結果を「X」表示とする秘匿措置を施しています。

なお、全体(計)から差し引きにより、秘匿措置を施した当該結果が推定できる場合は、本来秘匿措置を施す必要のない箇所についても「X」表示しています。

こちらの秘匿措置は林野庁作成の特用林産基礎資料と同様の取り扱いとしています。

<概要編>

I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

令和4年のきのご類生産量は460,890トン(前年比100%)で前年とほぼ横ばいであった。

品目別では、「ぶなしめじ」と「まいたけ」は増加しているものの、他のきのごは横ばいか減少している。都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、がきのご類の主産地となっている。

2 木炭等

令和4年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、6,762トン(前年比94%)で、前年より減少しており、粉炭が5,119トン(前年比112%)で増加した以外、全て前年より減少している。

都道府県別では、順に、「木炭(白炭+黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、「粉炭」が島根県、岐阜県、奈良県、宮崎県、長野県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、熊本県、静岡県、福島県、北海道が主産地となっている。

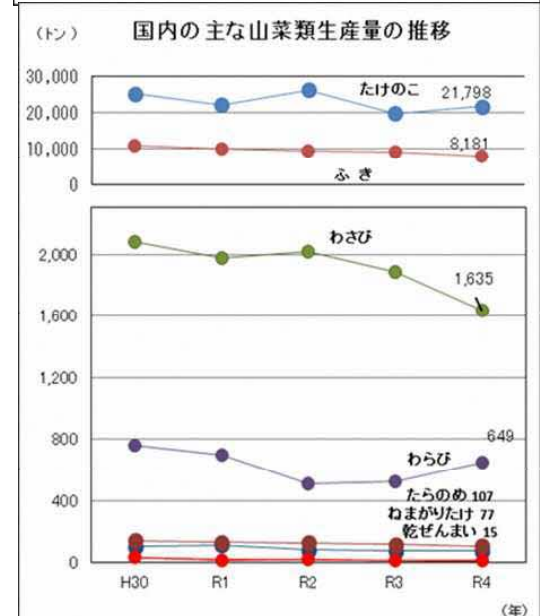
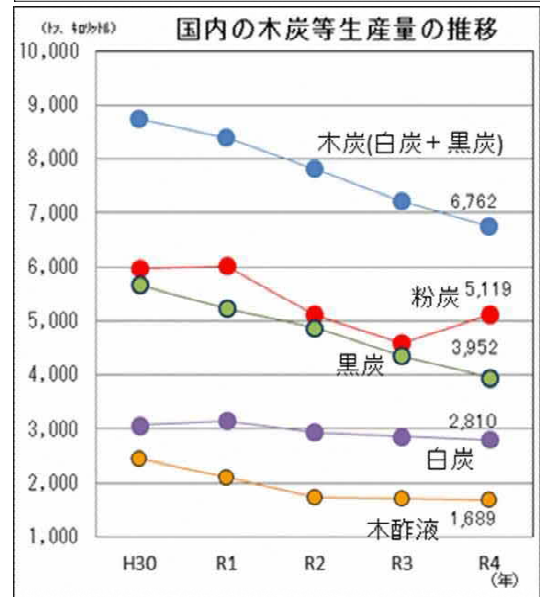
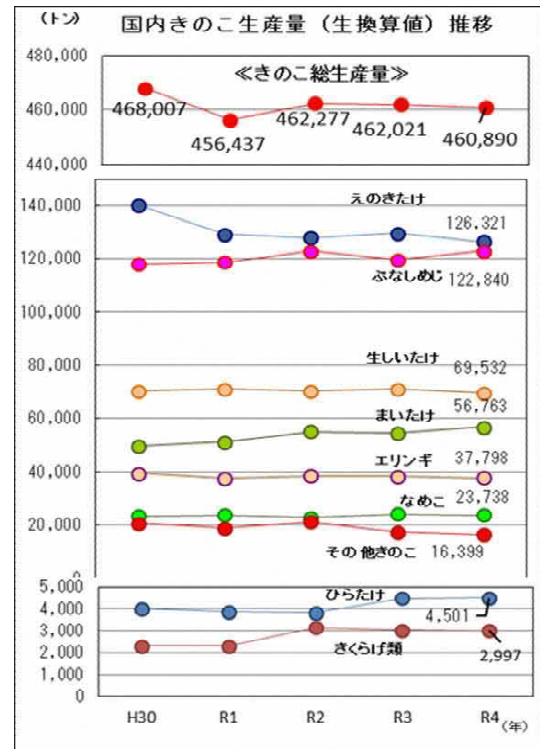
3 山菜類

令和4年の山菜類品目別の生産量は、「たけのこ」が21,798トン(前年比109%)、「わらび」が649トン(前年比125%)で前年より増加しているが、他の山菜は横ばいか減少している

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、京都府、熊本県が山菜の主産地となっている

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



II 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのご類

北海道では主に、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「エリンギ」「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和4年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこの生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」が第3位、「なめこ」及び「エリンギ」が5位となっている。

(1) 生産量

令和4年のきのこ類生産量(生換算値)は16,274トン(前年比95%)で、前年から減少した。

品目別では、「えのきたけ」、「エリンギ」「乾きくらげ」「えぞ雪の下」は前年より増加しているが、他のきのこは前年とばい、もしくは減少している。

市町村別では、苫小牧市、愛別町、白老町が主産地となっており、この3つの地域で道内生産量の約72%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約98%が菌床栽培となっている。

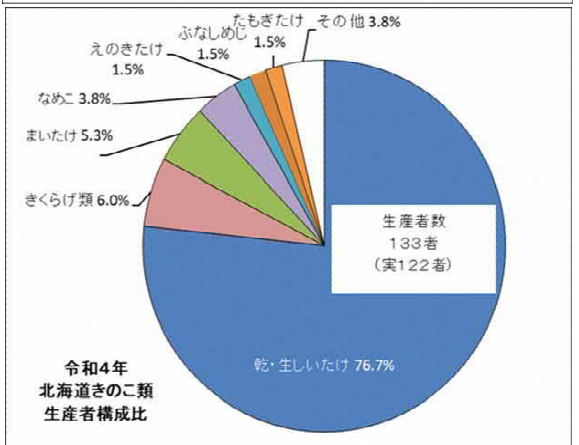
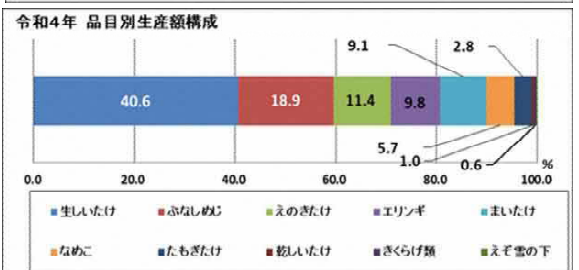
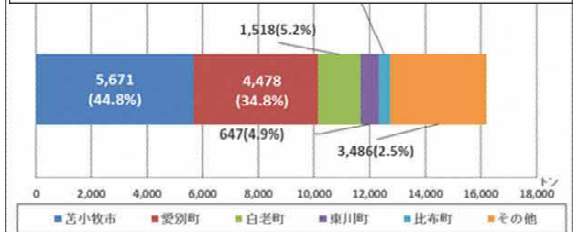
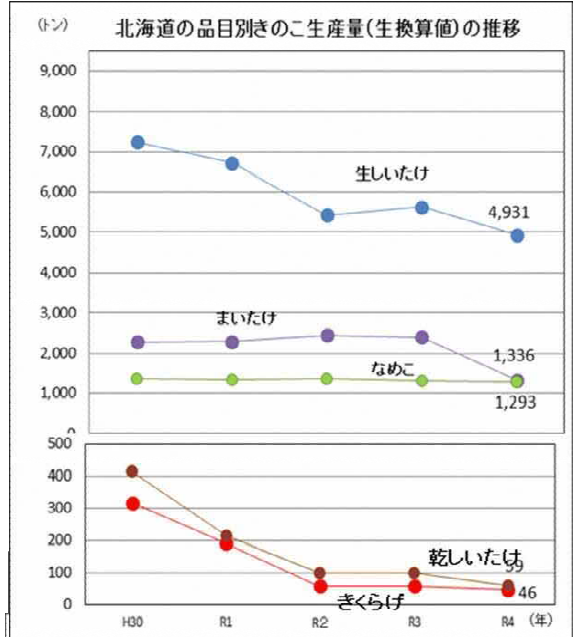
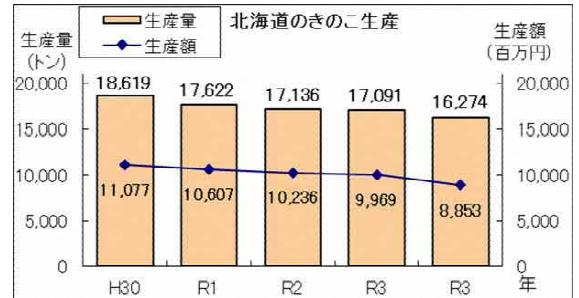
(2) 生産額

令和4年のきのこ類生産額は約89億円(前年比89%)で、前年よりも約11億円減少している。これは令和4年、「生しいたけ」と「まいたけ」の生産量及び生産額が大きく減少したことが要因として大きい。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が40.6%、「ぶなしめじ」が18.9%、「えのきたけ」が11.4%、この3品目で全体の約71%を占めている。

(3) 生産者数

令和4年のきのこ類の延べ生産者数は、133者と前年よりも11者減少し、実生産者数も122者と前年より9者減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が102者(原木栽培37者、菌床栽培65者)で76.5%、以下、「きくらげ類」が8者で6.1%、「まいたけ」が7者で5.3%、「なめこ」が5者で3.8%となっている。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭(白炭と黒炭)が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成22年以降生産されていない。

令和4年の木炭(白炭と黒炭)生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」のみの生産量は岩手県に次いで全国第2位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用(土壌改良等)に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用(土壌改良や植物活性等)のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

(1) 生産量

〈木炭(黒炭)〉

令和4年の木炭生産量は637トン(前年比100%)で、前年と横ばいとなっている。

市町村別では、標茶町、浦幌町、釧路市、森町、池田町が主産地で、この5地域で全道生産量約82%を占めている。

〈粉炭〉

令和4年の粉炭生産量は237トン(前年比103%)で、前年より7トン増加している。

市町村別では、中川町、下川町、が主産地で、この2地域で全道生産量約70%を占めている。

〈木酢液〉

令和4年の木酢液生産量は48kℓ(前年比178%)で、前年より21kℓ増加している。

市町村別では、白老町、森町、浦幌町が主産地で、この3地域で全道生産量約80%を占めている。

(2) 生産額

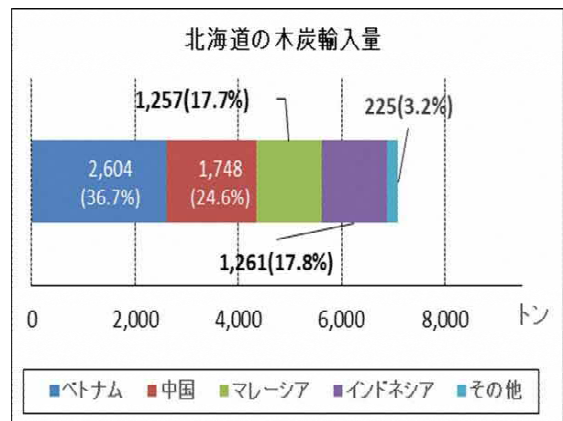
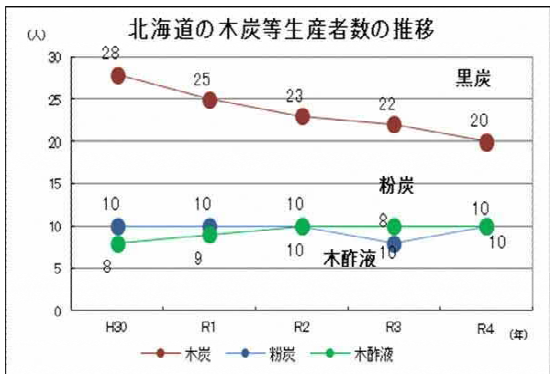
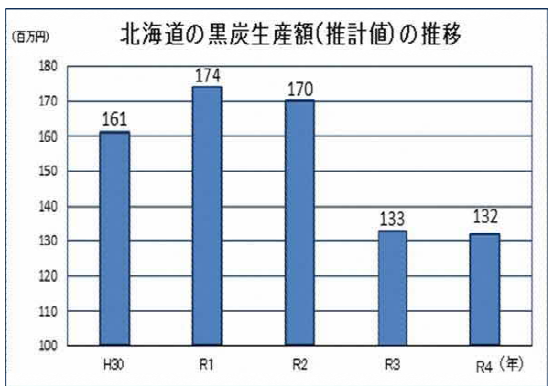
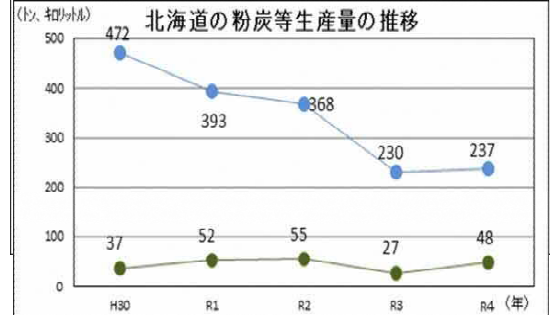
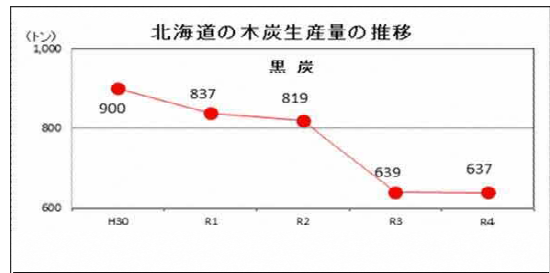
令和4年の木炭(黒炭のみ)生産額は約1億3千万円(前年比100%)で、前年と横ばいとなっている。

(3) 生産者数

令和4年の木炭等生産者数は、木炭(黒炭)が20人で前年より2人減少、「粉炭」は10人で前年から2者増加、「木酢液」は10人で前年と同数となっている。

(4) 木炭の輸入

北海道における令和4年の木炭輸入量は7,095トン(前年比102%)で、前年より137トン増加している。輸入量の国別割合は、ベトナムが2,604トンで36.7%と最も多く、次いで中国が1,748トンで約24.6%、インドネシアが1,261トンで約17.8%、マレーシアが1,257トンで約17.7%、となっている。



3 薪

薪は飲食店や、家庭用のストーブ等で使用されているほか、近年ではキャンプでの需要が増えている。

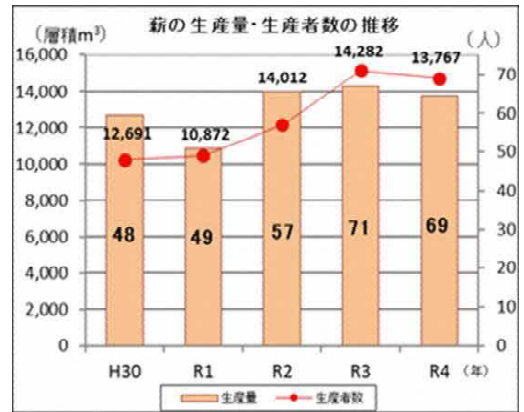
(1) 生産量

令和4年の薪生産量は、13,767立方メートル(前年比96%)で、前年とほぼ同等の生産量となった。

市町村別では、札幌市、旭川市、幕別町、倶知安町、白老町が主産地となっている。

(2) 生産者数

令和年の生産者数は69者(前年比97%)と前年より2者減少している。



4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらめ」、「こごみ」なども生産されている。

(1) 生産量

令和4年の主な山菜類生産量は646トン(前年比114%)で、前年より79トン増加している。

市町村別では、「ふき」は足寄町、「うど」は北斗市、「ねまがりたけ」と「わらび」は蘭越町が主産地となっている。

(2) 生産額

令和4年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約2.1億円(前年比113%)で、前年より約2千万円増加している。

(3) 生産者数等

令和4年の主な山菜類の実生産者数は12人と前年と横ばいになっている。

